ご家族にとって

認知症の進行によって変化する、妻との、夫との、親との関係性。
日々の介護と、その変化を目の当たりにする家族だからこそ、
認知症の方の話をじっくり聴くのは難しいことなのかもしれません。

傾聴ライターの活動は、
認知症の方の想いや人生のエピソードを知る機会になります。
また、ご家族と一緒に昔話をすることによって、
「自分はこう思っていた」、「この人をこう見ていた」と
客観的に捉え直すこともできるかもしれません。
それが、日常の接し方を振り返ったり、
敬意が高まったり、
社会性や人間性を再発見することにも
つながっていくのではないかと思うのです。

介護スタッフにとって

作った栞をデイサービスなどに持っていくと、
アクティビティなどで活用することもできるでしょう。
介護スタッフが、
認知症の方の人生を知るツールとなり、
言葉かけや、関わりのきっかけになります。

一人の利用者に対して、
複数のスタッフがそれぞれの栞を作るのは
どうでしょう。
人間はいろんな顔を持っています。
それは認知症になっても同じ。
利用者のイメージが膨らみ、
さまざまな角度から理解するツールになるのではないでしょうか。

認知症カフェで

お互いを知るきっかけとして、
栞作りに取り組んでみてはいかかでしょうか。
発表し合うと、共通点がみつかり、話が弾みます。
本人が作るのを周りでサポートするのもいいですね。
認知症の有無に関わらず、
お互いの人生を共有することは、
豊かなコミュニケーションを生み出します。